授業改善推進プラン＜学年別＞

２年	課題分析	授業改善策
国語	【言語に関する知識を活用する力】 〇口語文法で学ぶ言葉のきまりや語句の文脈上の意味を理解し、正しく表現できる能力を育成する必要がある。 【表現力の向上】 〇自分の考えが分かりやすく伝わるように、構成や展開を工夫して表現する力を向上させる必要がある。	【言語に関する知識を活用する力の育成】 〇新出語句を用いた短作文の練習、敬語を意識して活用する場面等を授業の中で計画的に設定する。 【表現力を向上させるための言語活動】 〇スピーチ、意見発表等の活動を学期に1回程度設定する。 〇スライド等を活用し、プレゼンテーション能力を高めさせる。
社会	【課題探求能力】 〇自ら課題を見つけ、主体的に解決できる力を育成する必要がある。 【「歴史」の流れに対する理解度】 〇時代ごとのおおまかな流れを捉える力を育成する必要がある。また、一年生の内容も振り返り、定着を図る必要がある。	【課題探求能力の育成】 〇教科書やタブレット等のICT機器の活用場面を増やし、社会の課題に関する疑問解決に取り組む場面をこれまで以上に設定する。 【時代を大観する能力の育成及び基礎知識の再確認】 〇教科書の年表やワークシート、ＩＣＴ機器を積極的に活用し、小学校の復習や知識の再確認をさせて定着を図るとともに、１単位時間の授業ごとの流れを確認し、展開していく。
数学	【思考力・判断力・表現力の問題点】 〇基本的な計算や知識の問題には取り組めているが、文章問題や授業の発展的な問題にはどのように解答すれば良いか見通しが立てられず、無回答が見られる。	【思考力の育成】 〇分かっていることや問われていることを明確にし、課題解決への見通しを全体で共有する。 〇授業の復習として、前回の内容を冒頭で生徒同士で確認し、本時の内容とのつながりを授業のまとめで確認する。
理科	【知識・技能の問題点】 〇 1学年時、コロナ対策の影響で、化学実験における技能の習得が十分にできていない。 〇 小学校高学年時、コロナ対策による時数不足の影響もあり、計算力がついていない生徒が多い。 【思考・判断・表現の問題点】 〇 自らの考えを文章に書き表すことが苦手な生徒が多い。	【紙媒体による読み書き反復練習の強化】 〇 副教材、補助プリント等で、読み書き、計算を繰り返し行い、復習の習慣化を図る。考査の一週間以上前から、問題プリント等で知識と計算力の再確認を行う。 【実験プリントの活用】 〇 結果、考察、展開、感想等をしっかりと書き分けられるように,それぞれの要件について都度、説明を行い、思考力、判断力、表現力の強化を図ってゆく。
英語	【知識・技能の問題点】 〇語順や動詞の活用等の基本的な知識の習熟度が低い生徒が多い。	【パフォーマンスタスクの設定の工夫】 〇会話や作文では苦手な文法や語彙の使用を避けることができるため、特定の文法や語彙の使用が必須となるような設問を作成し、準備の中で生徒が知識の復習をし、習熟につながる工夫をする。
美術	【知識・技能の問題点】 〇用具の使い方など今までに体験しているものでもなかなかうまく使えない生徒が多い。 【思考力・判断力・表現力の問題点】 〇個性的なアイデアを生み出すのが難しい。見本を提示するとそれに似た発想が多くなってしまう。	【個別指導】 〇机間指導をこまめにし、一人一人の用具の使い方などを点検しその都度アドバイスをする。 【思考力・判断力・表現力の強化】 〇見本とともにタブレットや資料集、その他参考資料を用い、アイデアの幅が広がるよう工夫をする。
音楽	【知識・技能の問題点】 〇音楽用語などの楽譜を読むために必要な知識について理解はしているが、表現につなげることができない生徒が見られる。 【思考力・判断力・表現力の問題点】 〇合唱では意欲的に練習に取り組むことができるが、楽譜を読み、表現を工夫することが苦手である。	【ワークシートの活用】 〇簡単な問題を繰り返し行うことで知識の定着を図り、表現と結び付けられるように繰り返し練習をする。 【話し合い活動】 〇グループで曲の感想を発表する機会を設けるなど、楽譜を見て考える時間を設ける。
保健体育	【知識・技能の問題点】 〇新体力テストの平均値は東京都平均、区平均よりも低い。基礎的な体力の向上が必要である。 【思考力・判断力・表現力の問題点】 〇自らの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動方法を工夫することに課題がある。	【知識・技能の育成】 〇授業内での運動量を３０分以上確保する。 【思考力・判断力・表現力の育成】 〇グループでお互いの動きを確認し、助言し合ったり、タブレットで自らの動きを確認したりする機会を設ける。
技術	【エネルギー変換の技術】 〇製作等の実習を通して、科学的な知識や考え方を理解させることが課題である。	【エネルギー変換の技術】 〇作業実習だけでなく、その裏付けとなる科学的的な知識を繰り返し伝えたり、ICT機器などを利用したりして学習事項の定着につながる指導をする。 〇製作実習等、遅れがちの生徒に対しては放課後の補充学習を行う。また、授業で使用したスライドなどは、Googleclassroomに貼り付けていつでも閲覧できるようにしておく。
家庭	【知識・技能の問題点】 〇家庭での体験により興味関心や技能に個人差が生じやすい。 【思考力・判断力・表現力の問題点】 〇家庭の仕事に興味をもち、日頃から家事に接するなどしていないとなかなか自分の事として捉えることが難しい。実技ではアレンジに個性を出す事を目標としているがアイデアが画一的になりやすい。	【技能・思考力・判断力・表現力の育成】 〇日頃から家庭の仕事を観察、体験をするよう促す。実技ではまずタブレット等を用いて、どのような作品があるのかを調べ、理解した上で自分のアレンジに生かすよう導く。